

化学工業

事例43

「油断と過信」を未然に防止する活動を強化し、完全無災害継続に挑む

安全衛生は企業活動の根幹をなすものとして、災害の撲滅に努力（2006年から2011年まで丸5年間完全ゼロ災害）してきたが、昨年不休業災害が1件発生したことで、「油断と過信」を真摯に受け止め、新たな決意で完全無災害の継続に取り組んでいる。

田岡化学工業株式会社・大阪府

レスポンスブル・ケア活動の推進

田岡化学工業株式会社は1919年に創業以来、その時代の最先端分野から、身近な暮らしを支える分野まで、独創性のある化学製品を提供し続けてきた。まず、企業の社会的責任を具体的に実現する活動として、製品の全ライフサイクルで環境・安全・健康・品質を確保するというレスポンスブル・ケア活動を紹介する。田岡化学工業は1995年のレスポンスブル・ケア協議会設立と同時に協会に加盟、社内にレスポンスブル・ケア委員会を設置した。社長を委員長とする委員会の下に、品質委員会、環境委員会、安全衛生委員会が置かれている。安全衛生委員会は月に一度開かれ、各部署の安全管理者が月次の活動内容を報告する。

化学品を製造する事業者として、環境と安全面への対策を実行し、改善を図る自主管理活動は田岡化学工業の根幹をなすものであり、環境保全、労働安全衛生、保安防災、化学品安全、品質保証の5項目についてそれぞれ目標を定め活動を展開している。レスポンスブル・ケア活動はその成果を公表して、社会とのコミュニケーションを深める役割を果たしている。

「いきいき田岡活動」を通じ若年者教育を推進

田岡化学工業の事業部門は大きく4部門に分かれるが、そのうち2部門の製造を担っている本社淀川工場では、精密化学品部門として医・農薬品の中間体や特殊光学用樹脂モノマーなどの精密化学品と、機能材部門では瞬間接着剤やゴム用添加剤などの機能性材料を製造している。従業員数は本社淀川工場に230人、兵庫県の播磨工場などを合わせると約300

る。スローガンは従業員から募集し、1次と2次選考を経てから社長選考で決定される。2012年に不休業災害が1件発生したことを重要視し、2012年度の安全スローガンには「油断と過信」を含むスローガンが採用された。今年度も引き続き「油断と過信」はキーワードになっている。

毎日の朝礼でスローガンを全員で唱和することで安全意識向上に役立っている。また、朝礼では一つのテーマを取り上げ、KY（危険予知）についての周知徹底を実施している。その日のテーマのもとになるのが各部署で展開しているワンポイントレッスンシート（OPLS）である。これは各部署がワンポイントで注意をするべき事項を目で見ても分かりやすい形で書き込んだ伝達ツールであるが、全面展開できるものについては、朝礼を活用して基本的な活動のポイントとして紹介、教育に役立っている。

さらに朝礼では、その日の作業についての注意事項の周知徹底がなされた後、非常作業が発生するようであれば安全管理者から注意ポイントが話される。非常作業は、通常の作業と異なり、作業頻度は少ないが作業項目が多岐にわたる場合や、作業者が未熟であるため労働災害の元となるものであることから、非常作業を安全に行うための周知徹底を図っている。朝礼時に改善提案の説明や、その日の作業における注意事項の発表はローテーションで行っているため、若年層が担当することもあり、そのまま恰好の教育の場となっている。

OPLSは、危険作業等をワンポイントで指摘しあうことで一つひとつの作業を再認識でき、安全・安定操業につながる。OPLSの効果は大きい。

多岐にわたり幅広く教育活動に取り組む

新人受入れ教育や外部から講師を招いての教育の実施など年間活動プログラムを作成している。OSHMS研修やリスクアセスメント研修は年1回、危険予知のグループ研修は年2回開催される。またメンタルヘルス講習会も開かれる。

さらに、製造部においては集合教育を行っている。これまでは製造課ごとに社内教育を行っていたが、時間的な制約や教育内容のレベルにばらつきが見られたため、一括での教育を行うことにした。危険物や下水道法などの法規の学習やフォークリフトの安全教育などを2ヵ月に1回実施している。

外部教育機関の利用では、日本プラントメンテナンス協会の会員企業でもあることから、協会が開催する設備管理セミナーや安全に関するセミナーを受講している。

住友グループ会社間でも連携をとっており、工場見学やお互いのセミナーに参加しあうなど教育活動の活性化に努めている。

